

1.診療科紹介（専攻医・後期研修医向け）

項目	内容
① 診療科名	耳鼻いんこう科・頭頸部外科
② 診療科の特徴	内科系診療・外科系診療の融合とバランス
③ 診療科のモットー	令和の改革
④ 診療内容・実績 (年 月時点)	別紙
⑤ 診療体制 (年 月時点)	別紙
⑥ 診療科カンファレンス	火曜日 午後 16-17 時
⑦ 経験できる疾患	難聴・めまい・花粉症・咽喉頭癌・救急
⑧ 経験できる技術・技能	別紙
⑨ 学会について	別紙
⑩ その他	

2.専門研修プログラムに準拠しない形での採用の場合

項目	内容
① 取得可能な専門医	
② その他	

3.連携施設として専門研修プログラムで採用の場合

項目	内容
① 基幹施設	名古屋大学医学部附属病院 耳鼻咽喉科
② 取得可能な専門医	耳鼻咽喉科専門医
③ その他	

4.指導責任者より専攻医・後期研修医へメッセージ

内科系診療の好きな先生・外科系診療を極めたい先生のどちらも必要です。

on と off をつけたい・公私をはっきりしたい先生、ウェルカムです。

音楽を聴いたり、歌ったりしたい先生、コミュニケーション障害に興味のある先生、奥が深いです。

家業が耳鼻咽喉科の先生、代々賢明な選択をされています。

研究に未開拓分野がたくさん残っています。

後期研修医募集

耳鼻咽喉科は近年国内外で耳鼻咽喉科・頭頸部外科と呼称されるようになってきました。当科は地域の基幹病院として機能しており、耳、鼻、のど、頸部に関わる炎症性・腫瘍性の病気および機能障害を対象とし、あらゆる耳鼻咽喉科・頭頸部外科疾患に対応することを目標に先進的知識と技術で質の高い医療水準を目指しています。当科は現在常勤医5名、非常勤医2名で診療にあたっており多忙ながらも充実した毎日です。生活にon/offがあり夏期には交代で長期バカンスを楽しめます。



<<手術風景>>

平成30年度の当科の手術数は中央手術室338名(558件)・外来その他108件・総計666件でした。主な手術は内視鏡下鼻副鼻腔手術(ESS)174例、鼻甲介切除術(含む粘膜下)111例、口蓋扁桃・アデノイド手術75例、鼓室形成術15例、鼓膜形成術12例、ラリngoマイクロ(喉頭微細手術)26例、(内視鏡下)鼻中隔矯正術35例、骨折整復術11例、唾液腺腫瘍22例などでした。

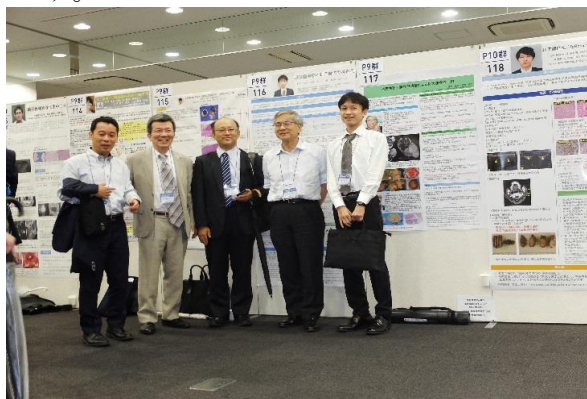
当科では中でも鼻科領域の手術が多く、アレルギー性鼻炎に対してトリクロール酢酸による下鼻甲介化学的焼灼術、重症例には入院にて超音波切開凝固装置(ハーモニックスカルペル)による下鼻甲介の凝固減量手術を施行しています。さらに若年者の再発性最重症のアレルギー性鼻炎に対して経鼻腔的翼突管神経切断術(後鼻神経切断術)を実施しています。副鼻腔炎に対しては侵襲の少ないFESSを施行していますが、内視鏡下鼻副鼻腔手術V型の認定施設であり、サージカルナビゲーションを用いて脳神経外科や眼科とともに拡大鼻副鼻腔手術を施行しています。

将来の後継者の育成は長期計画の柱であり、良好な治療成績とともに両輪の目標です。この目的を達成するためできるだけ研修医・レジデントに手術・処置・2次救急を体験させ、上級医が必要十分な介入をすることで後継者の育成を計っています。専門医レベルの卒後教育は当科診療レベルのボトムアップおよび研修医・レジデントの診療技術の進歩につながり、ひいては良好な治療成績に直結します。



<<クリスマス>>

従来専門領域の垣根を取り払って毎週火曜日には放射線治療科とのカンファレンスで高い医療水準を維持しています。感覚器病棟である東6階は長年に亘り医師と一体となって看護技術の蓄積と改善を行いチーム医療の実践に努力しています。リハビリテーション部とも聴覚・嚥下を中心に密接なチーム医療連携が形成され、当院ならではのノウハウが随所にあり、それによって医療レベルが維持され進歩しています。



<<耳鼻臨床学会>>

耳鼻咽喉科専門後期研修プログラムの概要

- プログラムの名称

- ① 名古屋大学医学部附属病院耳鼻咽喉科専門研修プログラム

- 研修開始時期と期間

- ① 4年間（200X年4月～200X+4年3月）
（4年間）

- 研修コース募集総人員

8名 7コース

AからGコース（原則として1つのコースにつき2名を上限とする）

- 施設群：下記の4群に分けて研修を行う。

- 名古屋大学医学部附属病院
- A群：名古屋第一赤十字病院、刈谷豊田総合病院、中部労災病院、小牧市民病院、市立半田病院
- B群：名古屋医療センター、トヨタ記念病院、稲沢市民病院、常滑市民病院、名古屋セントラル病院、松波総合病院
- C群：愛知県がんセンター中央病院、あいち小児医療センター、国立長寿医療研究センター

- 基本的研修プラン

- 原則として4年間の研修期間中に少なくとも2施設以上の関連研修施設で研修を行うこととする。

<<ワンポイントアドバイス>>

※※名大耳鼻咽喉科プログラムは人気があり、進路意思表示を9月にするよりも、前期研修の2年目の春夏にプログラム参加の意志表明をした研修医の方が進路とコース選択幅が広がると思います。

- 研修コース例 (B群関連のみ揭示、お勧めの一例：当院赤字)

B群病院は同学年2名受け入れ可能(例)：AとDコース

B群病院は同学年3名受け入れ可能(例)：A, C, Dコース

B群病院は同学年3名受け入れ可能(例)：A, C, Gコース

1. Aコース

1年目	2年目	3年目	4年目
名古屋大学医学部附属病院	A群またはB群	B群またはA群(2年目と異なる群)	名古屋大学医学部附属病院

B群：1年

3. Cコース

1年目	2年目	3年目	4年目
A群またはB群	B群またはA群(1年目と異なる群)	名古屋大学医学部附属病院	

B群：1年

4. Dコース

1年目	2年目	3年目	4年目
B群	A群	名古屋大学医学部附属病院	A群またはB群

B群：1.5年

6. Fコース

1年目	2年目	3年目	4年目
A群またはB群	名古屋大学医学部附属病院		愛知県がんセンター中央病院

B群：1年

7. Gコース (おすすめ)

1年目	2年目	3年目	4年目
A群またはB群	名古屋大学医学部附属病院		C群

B群：1.5年

- 当院での基本的経験：1年間の平均症例数（カッコ内は4年間に必要な数）がどのくらいできる？何が少なく、できない（×表示）か？

（症例数は年間平均数）

(1) 専門医研修における指導医・病院設備：指導医の資格と指導体制は必要十分。
病院の診療科目・基準は必要十分。

(2) 領域別の手術経験：術者あるいは助手として手術の最初から最後まで体験する
（症例数年間平均は H18-29 年の平均値）

- ✓ 耳科手術 86.9 例（20 例以上） 内視鏡下中耳手術（他施設にあまりない、研修 3-4 年目向き）、鼓膜形成術（研修 3-4 年目向き）、アブミ骨手術 4.25、×人工内耳埋込 0.25、×顔面神経減荷術 0.88
- ✓ 鼻科手術 413.5 例（40 例以上）後鼻神経切断術（他施設にあまりない、研修 3-4 年目向き）、内視鏡下鼻副鼻腔手術 V 型（他施設にあまりない、施設届け出制度）、トリクロール酢酸塗布（他施設にあまりない、研修 1-2 年目向き）
- ✓ 口腔咽喉頭手術 182.7 例（40 例以上）扁桃摘出術 105.7（15 例以上）、舌、口腔、咽頭腫瘍摘出術等 14.7（5 例以上）喉頭微細手術 46.7（15 例以上）、×嚥下機能改善手術・誤嚥防止手術 2.0（5 例以上）、
- ✓ ×頭頸部腫瘍摘出術（唾液腺、喉頭、頸部腫瘤等）24.0 例（20 例以上）、×頸部郭清術 6.0（10 例以上）

(3) 個々の手術経験：術者として手術の最初から最後まで体験する。

- ✓ 扁桃摘出術・アデノイド切除術 105.7 例（術者として 10 例以上）：1 年で達成可能
- ✓ 鼓膜チューブ挿入術 17.3 例（術者として 10 例以上）：少子化で減少中
- ✓ 喉頭微細手術 46.7 例（術者として 10 例以上）
- ✓ 内視鏡下鼻副鼻腔手術 172.9 例（術者として 20 例以上）：1 年で達成可能
- ✓ 気管切開術 17.6 例（術者として 5 例以上）：1 年で達成可能
- ✓ 良性腫瘍摘出術（リンパ節生検を含む）44.6 例（術者として 10 例以上）

※したがって当院のみで約 9 割の手術の経験数は達成可能。

(4) 検査の経験：嚥下 Videofluoroscopy Videolaryngoscopy（多い：研修 1-2 年目向き）、頸部超音波（研修 1-2 年目向き）、顔面神経 ENoG（研修 1-2 年目向き）、ファイバー下生検（多い：研修 1-2 年目向き）、赤外線眼振（多い：研修 1-2 年目向き）。×重心動揺計、×音声機能検査装置、×基準嗅覚検査（機器未整備）×ABR（聴性脳幹反応：修理中）